

仲西(女子) 神森(男子) 制す

県小学生ハンド ブランド工業杯

ハンドボールの第15回沖縄ブランド工業杯争奪第42回県小学生大会兼第37回全国小学生大会県予選大会最
終日は22日、沖縄市の県総合運動公園体育館(渡真利優人撮影)



中央に駆け込んでシュートを狙う仲西ハンドボールクラブの與座ひなた(22日、沖縄市の県総合運動公園体育館(渡真利優人撮影))

合運動公園体育館で行われた。男子は神森クラブが前田小を24-12で下し、頂点に立った。2年ぶり17度目の優勝。女子は仲西クラブが20-13で読谷クラブに勝ち、11年ぶり3度目の栄冠を手にした。優勝チームは

前	神	▽連決勝	神
田	森	27	森
20	13	宮	24
19	13	城	13
コ	ザ	城	6
			12
			前
			田

仲	読	仲	▽連決勝	神
西	谷	西	24	森
20	16	16	13	11
8	12	13	6	6
6	7	13	12	前
13	読	前	田	
		田		

横一線守備さえる 仲西

11年ぶり3度目の優勝を果たした仲西クラブ。終盤を告げるフザが鳴ると、選手らは互いに抱きしめ合い、歓喜の声を上げた。横一線の守備を引き、ロングシュートを放とうとする相手選手には2人掛かりでしこめつき、勢を崩しにかかった。それでも守備を切り込んでシュートを放とうとする相手にはGKの新川杏奈(6年)が足でセーブする場面が何度もあった。新川は横一線のディフェンスのおかげで相手がよく見えた。みんながしっかりと守ってくれたおかげと好セーブを振り表情を見せた。(渡真利優人)



女子決勝を制した仲西ハンドボールクラブ



男子決勝で頂点に立った神森ハンドボールクラブ



守備を切り抜けシュートを放つ神森ハンドボールクラブの池田俊介

○：昨年は準優勝に終わった男子神森。池田俊介主将(6年)は「全国大会に行けなかった悔しさがあった」と、強い思いで決勝に臨んだ。横一線の守備で相手エースを徹底的にマークし、前半から堅守を貫いた。センターの東江琉希(6年)を中心に相手のロングシュートのチャンスを積極的に封じ込め、流れを引き渡さなかった。(渡真利優人)

前半から堅守貫く 神森

チームの目標は全国制覇だ。翁長誠光監督は、選手をねぎらいつつ「守備が強みだが、パスカットを狙いに行けず守りに入ってしまった」と、高い目標に向かうための課題を口にした。スローガンは「守って速攻」。池田主将は「県大会は通過点にすぎない。守備をみんながカバりたい」と全国に向けてさらなる練習を積む。

©琉球新報 無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します